

平成 16 年 8 月 27 日

南海電気鉄道株式会社

新型車両「2300系」導入

- 世界遺産登録された高野山へのアクセス車両として運用予定 -

南海電気鉄道株式会社（社長 山中 諄）では、平成 17 年春ごろの営業運転開始をめぐり、高野線に新型通勤車両「2300系」を2両4編成（8両）導入いたします。

「2300系」は設計コンセプトを「人と環境に優しい車両」とし、座席配列を当社初となる3列（2列+1列）のクロスシートを採用することで、通路幅を既存車両より広く設定し、客室内の快適性とバリアフリー化を追求した車両となっています。また制御装置にVVVFインバーターを採用、さらに冷房機の冷媒にはオゾン層破壊に影響のない代替フロンR407Cを使用するなど、環境負荷の低減にも配慮しています。

この新型車両「2300系」は、高野線での営業運転を予定しており、今年7月に世界遺産登録された高野山へのアクセス車両として、お客さまのさらなる居住性の向上を図ります。

新型車両「2300系」の実車は、10月2日（土）に南海電鉄千代田工場にて開催の「南海電車まつり」でお客さまに披露する予定です。

詳細は別紙のとおりです。



新型車両「2300系」(イメージ)

別 紙

< 新型車両「2300系」概要 >

1. 車両型式 2300系
2. 編成数 2両×4編成(8両)[Mc1 - Mc2]
3. 運行路線 高野線
4. 営業開始日 平成17年春頃(予定)
5. 最大寸法 17,725mm(長さ)×2,744mm(幅)×4,005mm(高さ)[2両とも共通]
6. 定員 102人[2両とも共通]
7. 制御装置 IGBT 2レベル VVVF インバータ
2MM×4群制御

8. 車両の主な特徴

外観

- ・お客さまに親しまれる車両外観デザイン

南海電鉄としては、13年ぶりに新しい外観デザインを採用。外観は高野山を代表する建造物である根本大塔をイメージした赤色をベースにし、4編成それぞれに花の愛称(さくら・はなみずき・しゃくなげ・コスモス)をつけ、車両のボディ部分に花のデザインを施しました。

内装

- 「やさしさ」と「くつろぎ」の空間をご提供する内装デザイン

座席配列を2列、1列のクロスシートとしました。また沿線の眺望をお楽しみいただけるように、大型一枚窓を採用しました。内装は落ち着いた茶色系をベースに高野山の自然をイメージするデザインとなっています。

バリアフリー対応

車いすのお客さまも、車内を移動するのに十分な通路幅を確保しています。また車いすスペースには折りたたみ式座席を設置しています。さらに、車内案内表示器、ドアチャイムを設置しています。

9. 備 考

新型車両「2300系」の実車は10月2日(土)に南海電鉄千代田工場にて開催の「南海電車まつり」にてお客さまに披露いたします。